



関西支部報

http://www.jackansai.com

山に生きた父・藤木九三の足跡

藤木高嶺

昭和38(1963)年5月12日、芦屋ロックガーデン入口「高座の滝」横の岩壁前で、父・九三の記念レリーフ序幕式が行われた。レリーフは、直径50cmの銅板に「九三翁」の姿を浮き彫りにしたもので、日本山岳会会員で彫刻家でもある佐藤久一朗氏の製作。佐藤氏は上高地にあるウォルター・ウエストンのレリーフを製作している。当日は小雨模様にもかかわらず、約200人の山の仲間たちが集まり、ロックガーデンの名付け親の父の功績を称えた。九三は挨拶しながら絶句して、涙を流した。

昭和40(1965)年6月4日には、同じレリーフが北穂高岳・滝谷の出合に取り付けられ、九三夫妻や山岳関係者が多数集まって序幕式が行われた。これは大正14(1925)年の滝谷初登攀を記念して、第Ⅱ次R・C・Cが設置したものの。同年秋、日本山岳会創立60周年記念式典が東京目白の椿山荘で秩父宮妃殿下を迎えて行われた。その席上、日本山岳会顧問だった九三は名誉会員に推された。

父は、朝日新聞社に通うにも車やバスは避けて、いつも猫背でしっかりとした足取りで歩いていた。それはリュックサックを背に担いで、山道を歩くのと少しも変わりなかった。その話は社内でも有名だったとか。煙突のように吸っていたタバコも、途中でプツリ止めてしまった。

若いときは酒も相当飲んでいたらしいが、私の知る限りは全くだめで、大の甘党であった。しかし、酒席を楽しませることは人一倍巧かった。ハダカ踊りのカップレは得意中のとくだったと、富田碎花氏や水野祥太郎氏から聞かされたが、残念ながら私は見る機会が無かった。「オヤコドリ」や「カッコウ」などの歌を覚えてもらったことが懐かしい。親父が「ガマの油」を得意になって唸っていたのが、遠い昔話になってしまった。

昭和44(1969)年春、高血圧症のため右手右足が不自由になると、殆どペンを手にすることが無くなってしまった。外出することも無く、読書と庭いじりの生活が始まった。翌45(1970)年4月26日、神戸登山研修所の開所式に無理を押し出席したのが、最後の外出になってしまった。父の生命ともいべき数百冊の山岳文献は、本人

大阪府山の日関連行事(平成29年度)

著者と語る会のご案内

日時 11月18日(土)14:00~16:00(受付13:30~)
 講師 中川 委紀子氏 (関西支部所属)
 演題 「山と宗教」
 会場 弁天町ORC200生涯学習センター 第2研修室
 オーク200ビル内2番街 7階
 JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅直結西側
 申込み・問合せ 久保和恵
 e-mail: unclertorys05-kazu@nifty.com
 電話: 090-2598-9226

※会場の都合上、11月10日までにメール又は電話でお申し込みください。

山に生きた父・藤木九三の足跡	藤木高嶺	1
支部分行報告	2
▽高岳▽三草山▽県境縦走・亀山峠▽学能堂山▽箕面▽泉原▽松尾山▽笠山▽ロープワーク講習会▽白滝山▽森山岳▽国見山▽庄司峰▽大日山▽小大日山▽撰津峡▽小塩山▽県境縦走・三峰山▽高見峠▽泉原▽竜王山▽県境縦走・高見峠▽大又▽ボンボン山	9
本山寺山森林づくりの会活動報告	11
自己紹介	中村三佳	11
台湾の南湖大山、中央尖山と沢登り	茂木完治	11
日本の山岳画集 その2	嶋岡 章	12
会務報告	14
新入会員・会友紹介	16
支部山行計画	17
自然保護行事	19

目次

の強い意志で登山研修所に寄贈され、「藤本文庫」として保管されることになった。

その年の11月16日、病状が悪化して入院、12月11日午前4時40分、腎不全のため83歳の生涯を終えた。

支部山行報告

支部山行17-1 しっかり歩こう
北摂の山 高岳から三草山

小黒節郎

4月1日(土)晴

今回はしっかり歩いた最後に素晴らしい眺望のご褒美を味わうことができ、大満足の山行となりました。

本日メンバーは4名の少人数。日生中央駅に集合し、後川行バスに乗り杉生新田下車、奥猪名健康の郷の中を通過してロッジ奥から登山開始。このコースはP591(高ンポ)を通るルートで最初から急登、尾根に出たからは快適な縦走路になり、P711を越えるとしっかりした登山道に合流する。天気も良くいいペースでどんどん距離を稼ぐ。本日の最高峰の高岳720mから中山峠、牛の子山、滝王山と進み、最後のピーク三草山564mに到着。広々とした山頂からは眺望が開け、大阪市内から六甲、瀬戸内海まできれいに見える。コーヒーとカステラ付きでしばらく景色を楽しむ。振り返ってみると他の登山者に一人も出会わなかった。

大阪の近郊にこんなに静かで素晴らしい山があることが認識できた価値ある一日となりました。自宅を出てからちょうど3万歩で帰宅。心地のいい疲労感でビールを味わうことができました。



牛の子山にて 写真提供：阪上茂生

【コースタイム】

杉生新田バス停09:35～10:00奥猪名健康の郷ロッジ～10:30P591～11:10P711～11:30高岳12:00～13:15牛の子山

～14:15滝王山～15:10三草山～16:40森上バス停

【参加者】

山内幸子 久保和恵 阪上茂生 小黒節郎 計4名

支部山行17-2 県境縦走48
亀山峠～杉平～学能堂山～ P847

新本政子

4月15日(土)晴一時雨後晴



三多気の桜並木 写真提供：前田正彰

青蓮寺川沿いの桜を楽しみながらタクシーで入山。長尾峠からひと登りした亀山は強い風であった。陽だまりで小休止の後、名張川の出合へと下る。八重桜の並木はまだ蕾。一旦県境を離脱し村道に行く。家々にはボケヤレンギョウの花々がのび

やかな春の陽気を漂わせていた。上太郎生公民館軒先での昼食中に突然の驟雨に見舞われたが、県境復帰後は天気も回復し暖かい陽ざしの中、2010年の分水嶺山行の通過地蔵王公園へと到達。大洞山分岐で県境は南に折れ満開の桜に大賑わいの三多気へと下る。尾上JAC前会長一行と遭遇のハプニングや今夜の宿の主人の出迎えにすっかりのんびりしていたが、最後にゴミ捨て場と化していた汚い井ノ尻谷を滑りながら下る羽目となりお花見気分は吹っ飛ぶ。「ほらのもり」に投宿、ポタン鍋をいただいて快眠。

4月16日(日)晴

早朝より気温高く暖かな一日。伊勢地川を挟んで立派な県境の碑が建つ昨日の離脱点の対岸より復帰し、南へと県境を辿る。P908まで体力不足を嘆きながらひたすら頑張ることとなる。学能堂山では景観を楽しみ山の同

定に暫し時を費し、小須磨山にて昼食。仏来山から北尾根三峰の看板があるP847に至り今回の県境を離脱する。神末川の支流に沿った林道終点まで下り、三峰山登山口バス停より一日二本の村営無料バスを待つこと一時間余。道の駅「姫石の湯」にて入湯後名張駅より帰宅。

【コースタイム】

15日 長尾峠09:41～10:19亀山峠～11:38名張川出合～12:48東上～14:09大洞山分岐～14:59三多気の桜分岐～16:49神末・民宿

16日 杉平07:00～09:23P908～10:15学能堂山～12:06仏来山～12:47P847～14:18三峰山登山口BS

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 立野里織 前田正彰 山内幸子
山本義博 新本政子 会員外1 (15日夕方合流)村田か
おり 15日8名 16日9名

17-3ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く1
箕面から泉原
廣瀬健三

4月20日(木)晴

当該シリーズの初回、阪急電鉄箕面駅に集合。比較的近くに住む小生にとり通い慣れたる箕面の滝への道ですが、結構速いピッチで何時ものブラブラ散策と違いチョット戸惑う。滝は水量多くナカナカ良き眺めなり。

瀧安寺で山内リーダーの指導の下、準備体操。今回から魚津清和氏がリーダーに加わって頂けるとの事。天気も良く気温も暑からず寒からず絶好の歩き日和。

ゆったりと歩ける行程であったが、時には急な階段登りが有り、適度な刺激となる。ウグイスの可愛さえずりを聴き乍ら、青葉道を辿る。山桜も見られ、のどかな「ゆるやか山行」ならではの歩き、良きかな。途中でこまめに絵道具を出してスケッチされる人、歩きながら談話を楽しむ方、何時もの様に和気藹々の山歩き。殆んど



東海自然歩道西の起点で 写真提供：魚津清和

見晴らしがきかぬ行程でしたが唯一、最勝ヶ峰(535m)から大阪平野が一望され満足しました。

【コースタイム】

箕面駅08:37～09:45箕面の滝～10:35箕面ビジターセンター(東海自然歩道西の起点石柱)10:55～12:00石の展望盤12:30～12:32最勝ヶ峰～13:43北摂霊園中央休憩所14:03～15:36泉原バス停

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子
嶋岡章 戸島泰三郎 中島隆 野村哲夫 廣瀬健三 松
波幹夫 森沢義信 岐部明弘 木村早苗 小林三喜男
田中アキエ 中田栄 蓮川博凡 播戸日出生 横山規江
(京滋)上田典子 会員外1 計22名

支部山行17-4 4000山グランプリ
松尾山～笠山
重廣恒夫

4月21日(金)晴

金沢に宿を取っていたが、翌日の行動時間を長くするために千丈温泉に移動。しかしこの時期営業している宿はなく内尾八幡神社の駐車場にテントを張る。

4月22日(土)晴

松尾山はセイモアスキー場が営業している時期に、リフトで標高差700mを稼ぎ登られることが多いのだが、今年の営業は終了しているのでゲートから笠山林道を歩く。センターロッジからは林道を離れ、雪の無いスキー場を歩く。ガスで何も見えないので第3リフトの終点からは、第2リフト沿いに直登するが斜面が急で残雪と藪の不安定な場所ではロープを結んで滑落に備えた。リフト終点到着する頃から青空が見え始め展望も開けてきた。キャンプ場からは稜線をひたすら松尾山に向かって歩く。途中のP1073に三雄山という名前がついているのは、スキー場の設計・監修者の三浦雄一郎さんにちなむものらしい。東屋で昼食を摂り、再び雪の稜線を辿る。辿り着いた頂上(1163m)は広く、ヤドリギのついた木々を見ながら周遊し、往路を戻った。ロッジの荷物を回収し今日のキャンプ地オンソリ谷の出合に向かう。雪融け水の音がうるさいので、さらに1km進んだ尾根の末端にテントを張った。取水に500mも戻らなければならなかったが、おかげで露の臺を摘み一品を作った。

4月23日(日)晴

今日も快晴である。歩きはじめにカモシカに会った後は黙々と残雪の残る林道の端を歩き、笠山隧道入口に到

る。ここからは急斜面をひと登りして笠山に続く稜線に出た。しばらくは藪をたどり標高800m辺りから残雪が出て歩きやすくなったが、同時に熊の足跡を辿ることになった。熊は昨日頂上に向かったらしい。笠山(865m)の頂上はわずかな平坦地であるが展望はない。三角点は頭を出し、第46回国体の記念碑があった。帰路、出遭いを避けた熊の走り下った深い足跡があり緊張する。それでもタムシバ、イワウチワの花を愛でながら藪の稜線をハチブセ山(851m)に縦走し、尾根筋を八幡神社に下った。

【コースタイム】

22日 八幡神社05:45～08:57キャンプ場～09:51東屋～10:56松尾山～12:25三雄山～13:51センターロッジ～14:58オンソリ谷出合～15:31テントサイト

23日 テントサイト06:03～07:21笠山隧道入口～09:10笠山～10:49P753～11:37ハチブセ山～12:33笠山林道合流点～13:54八幡神社

【参加者】

重廣恒夫 会員外1

計2名

支部山行17-5 レスキュー講座 ロープワーク講習会

黒田記代

2017年4月22日(土) 14:00～17:00

場 所：支部ルーム

講 師：黒田記代会員

内 容：

「初心者のためのロープワーク」を実施。参加者の知りたい事を中心に講習する。

ロープを束ねる方法、コツ、注意点を伝授。八の字結び、クローブヒッチ、ムンターヒッチなど基本となるロープの結び方を実地練習した。

【参加者】

馬島有美 諏訪千絵 岡田輝子 水谷透 登山教室受講者4

計8名

支部山行17-6 比良山系を歩く 白滝山から森山岳

上田典子

4月23日(日)晴

近江琵琶湖の西岸に連なる「比良山系」は、四季を通じて山登りを楽しめるエリアです。関西で、京都北山とも、鈴鹿とも少し違った趣を醸し出してくれるように感



森山岳から蓬莱山は明るい稜線 写真提供：魚津清和

じます。

今回の例会では、森山岳(1080m)がコースにありました。一般縦走路から外れたところで、私にとっては憧れの山頂でしたので、参加をお願いしました。

坊村で下車。安曇川の水の清らかなこと、見上げる山並みの新緑と、初夏の日差しに山モード全開。登山届投函後、準備体操。伊藤新道は急登で始まり、わさび大滝、天井滝に続き、沢筋の荒れた道を慎重に辿る。最後の急登をジグザグに登り、傾斜の緩んだ尾根を少し東に行くと、白滝山山頂(1022m)に到着した。記念撮影の後、オトワ池に。南進してスギヤ池、長池。森山岳へは、磁石の南を指す方向へ小さなアップダウンを繰り返し進みます。尾根の左右どちらを行っても、西側の切れ落ちたほうへ寄りすぎず南進です。皆でワイワイガヤガヤ言いながらの前進は、今日のような好天ではとてもとても楽しいものです。最後の山頂まで緩やかに上り詰めたところの立木に「森山岳」とかろうじて読める木札がありました。1080mの山頂はひっそりとして、展望はありませんがやっと辿り着けたという感動を与えてくれました。後は稜線伝いに蓬莱山へ。そして打見山山頂ゴンドラ乗り場で終了。歩きやすい季節に、比良山系の「粋な」コースを歩くことができ感謝します。

【コースタイム】

坊村バス停09:42～09:45明王谷林道入口10:00～10:40伊藤新道出合～11:28わさび大滝～12:26白滝山13:05～13:24長池～14:23森山岳～15:00蓬莱山～15:27打見山

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新本政子 岩崎しのぶ 魚津清和
関戸京子 中山勝也 (京滋)上田典子

計8名

支部山行17-7 4000山グランプリ
国見山～水葉山～庄司峰

重廣恒夫

4月29日(土)晴

金沢駅よりタクシーで丸山登山口に向かう。県道207号線から犀津林道に入る。途中、国見林道に入りタクシーを待たせて国見山(557m)に登った。その後、展望台に向けて走るが道路を積雪が塞ぎ降車。そこから犀鶴林道を500m程歩いて丸山への道に入る。尾谷峰(△二ノ輪)の三角点は雪から顔を出していた。そこからは雪で寝た灌木の藪となり、全身を使っての格闘が始まる。水葉山(891m)には「チャムラン山の会」の付けた山名板があった。

水葉山からは、緩やかな尾根に残る雪の上を歩けるようになったので楽になった。標高点804mを過ぎてから912mに向かう途中の積雪の末端に荷物をデポして拳原山に向かう。予定では庄司峰までテントを上げ、翌日拳原山往復の予定であったが、思いのほか少ない積雪なので本日往復することにした。

案の定、P912からはさらに藪が酷くなり、鋸を使わないと進めないようになった。辿りついた庄司峰(987m)の山名板は高い位置にあった。さらに拳原山に向かって歩き始めるが100m程進んで断念した。これまでの行程



写真提供：重廣恒夫

と、これからの1kmの往復から帰路は闇夜の藪漕ぎとなり危険と考えたからである。庄司峰から30分程下ったところでピッケルを無くした事に気づき、回収に戻るハプニングがあった。その後デポ地まで戻り、積雪からの流れを受けて夕食を作った。

4月30日(日)晴

昨日は一日中強い風が吹いていたが、今日は穏やかである。肩に食い込む荷物に悲鳴をあげながら往路を水葉山まで戻る。いよいよ北尾根の下降である。最初は積雪が使えたが、その後樁を主体とした藪となり時間がどんどん過ぎていく。一つ一つの標高点を確認しながら下っ

ていることを実感し、眼下に送電線が見えた時はほっとした。花もコブシ、イワウチワ、ショウジョウバカマからカタクリに変わり、北陸電力加賀幹線十四鉄塔からは巡視道を歩くようになり、チゴユリ、イカリソウ、シャガなど色とりどりの花が咲き乱れていた。金谷橋を渡った上の林道はもう夏の陽気であった。

熊走町の公民館まで歩きタクシーを呼ぶ。目についた蕎麦屋「なごみ」で蕎麦を食べたが大当たりであった。人気の店らしく車が駐車場を埋めていた。

【コースタイム】

29日 国見山06:33～06:49降車点07:07～08:02丸山～08:51尾谷峰～10:37水葉山～12:14デポ地～13:40庄司峰～14:48引き返し点～15:53庄司峰～17:28デポ地

30日 デポ地04:50～06:20水葉山北尾根下降始点～07:13P763～08:22P559～09:35P466～10:05鉄塔～10:30金谷橋上林道～11:12熊走町公民館

【参加者】

村田かおり 立野里織 重廣恒夫

計3名

支部山行17-8 4000山グランプリ
大日山・鈴ヶ岳～小大日山

立野里織

5月3日(水)曇後晴

大聖寺駅からタクシーで真砂集落跡へ。沢沿いを進み今回の下山道になる徳助新道登山口を確認後、池洞新道登山口に到着。急登が始まるが、登山道は整備されていて歩きやすい。両脇に群生しているイワウチワを愛で、心地よい風にふかれながら進んでいく。P892のあたりから積雪が一部残って、地面はぬかるみ滑りやすくなった。P1044あたりから一面が積雪に覆われ、慎重に足を進めて大日小屋に到着した。小屋の中では4名の登山者



写真提供：重廣恒夫

が昼食中だった。小屋の中で休憩したのち、風の強くなった稜線を大日山へと向かう。眼前に白山連峰が見えてきた。雪を被った白山の美しさと迫りに圧倒される。写真撮影ののち大日山山頂(1368m)から北へ鈴ヶ岳を目指すが、急な斜面に雪が残っておりアイザイレンして下った。途中イワウチワだけでなくショウジョウバカマも彩を添えてくれている。カタクリ小屋に到着。大日小屋と同様小屋内にはストーブも置いてあり、清潔できれいな小屋であった。荷物をデポして東に白山連峰をみながら鈴ヶ岳(1175m)往復。いつのまにか風もなくなり、晴れわたって暑くなった。カタクリ小屋の宿泊者は我々のパーティーだけで、暗くなる前に就寝した。

5月4日(木)晴

3時30分起床。白山連峰の合間から昇る日の出を拝みながら大日山まで登り返した。大日山からは徳助新道を下り、小大日山に向かった。小大日山(1198m)も360度のパノラマで、振り返ると昨日通ってきた大日小屋や大日山、カタクリ小屋、鈴ヶ岳も見えた。西の遠方にはうっすら日本海も見渡せた。小大日山をこえると残雪もなくなり、P1053を通過したのちは新緑がまぶしい登山道となった。両脇に群生するイワウチワに再び癒されながら下山するが、コシアブラの若芽を摘み取るおまけが待っていた。

【コースタイム】

3日 真砂集落跡06:52～07:18大日山登山口～08:45P892～09:29P1044～10:44大日小屋～11:54大日山～13:08カタクリ小屋～13:55鈴ヶ岳～15:11カタクリ小屋

4日 カタクリ小屋04:42～06:09大日山～07:37小大日山～08:28P1053～09:48真砂集落跡

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 村田かおり 立野里織 計4名

支部山行17-9 しっかり歩こう 摂津峡～ポンポン山～小塩山

山内幸子

5月7日(日)晴

爽やかな5月の風に吹かれて新緑の中を歩いた山行。ポンポン山までは人が多く頂上は満員であったが、北に進んで西尾根に入ると全く人に会わず。広葉樹の新緑を愛でながら静かな山歩きができた。このコースはお勧めである。

【コースタイム】

摂津峡下ノ口08:55～09:22白滝～10:10神峰山寺～11:25本



ポンポン山にて 写真撮影：山内幸子

山寺～12:44ポンポン山～13:20リョウブの丘～14:05森の案内所～15:38小塩山～16:30天皇稜道登山口～16:44南春日バス停

【参加者】

山内幸子 小黒節郎 阪上茂生 戸島泰三郎 計4名

支部山行報告17-10 県境縦走49 三峰山～高見山～高見峠

小黒節郎

5月13日(土)雨後曇

今回県境縦走到初参加したが、久しぶりのテント泊と静かな縦走路を満喫する充実した山行となった

榛原駅からタクシー2台に分乗し登山口へ。雨の中をスタートし、4月の県境離脱点P847を目指す。沢筋から尾根筋へとリーダーの適格なコース取りで約1時間かけ県境尾根に出た。はっきりした踏み跡と、県境の標識が適度な間隔で続いている。三峰山への急登を登りきると、なだらかな山頂(1235.2m)に到着。雨もやみ、北側の視界も開けて気持ちも軽くなる。冬季は霧水の有名スポットとのこと。日本の山の大きな魅力は四季の変化の味わいと再認識。昼食後、高見山への縦走路を西に辿り新道峠の水場で給水。高度を下げ、特大のサルノコシカケがある白髪峠から少し登って本日のキャンプ地に到着。

5月14日(日)曇後晴

5時出発、静かな縦走路にウグイスの鳴き声が心地よく響き、見下ろす樹林帯は朝靄に覆われて幻想的な雰囲気味わいながら歩く。今日のルートは赤いペンキを塗った樹木がほぼ等間隔にあり判りやすい(あまり美しくはないが…)。請取峠へと高度を下げた後、トクマ山へと登り返す。トクマ山西峰到着後、空身でトクマ山東峰を往復し、高見山を目指す。徐々に尖った山容が近づいてくるが、快晴となり日差しが強い。高見山の手前に伐採作業に使ったと思われる大型機械と小屋跡が朽ちていた。日本の林業の衰退を憂いながら、小さいころ実家の山の作業を手伝った思い出がよみがえる。昨日から他

の登山者には出会っていなかったが、高見山山頂には人影が見える。頂上(1248.4m)は三峰山と違い立派な祠がある人工的な佇まい。360度の展望を満喫して長かった縦走路を振り返る。下りは高見峠へ。一瞬「なんで遠回りするのだろうか?」と思ったが、「県境縦走」だったことを思い出し、納得。小峠から平野分岐に登り返し、たかすみ温泉を目指して高度を下げ、12時間の行程を終了した。温泉で汗を流してから帰路。

緑豊かな縦走路だったが、高校時代に山の花を覚えてから進歩がない植物オンチの私にとって、知識豊富なメンバーのコメントが勉強になった。特にギンリョウソウの姿と生態に興味深かった。自然に対する興味のレベルを上げようと思い、翌日は自宅で庭の芝刈りと植木と花の手入れに汗を流した。



写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

13日 タクシー降車09:40~10:38県境尾根~12:38三峰山~13:59新道峠~15:13白髪峠~16:00キャンプ地

14日 キャンプ地04:49~06:10大滝山~07:35請取峠~10:37トクマ山東峰~12:45桃俣分岐~13:49高見山~14:33高見峠~17:20たかすみ温泉

【参加者】

重廣恒夫 新本政子 黒田記代 立野里織 山内幸子
小黒節郎 計6名

17-11ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く2
泉原から竜王山

中山勝也

5月25日(木)雨後曇

昨日からの雨が降り止まぬ泉原バス停を出発。集落を西に少し入ったところに道標があり、ここから東海自然歩道に入る。素戔鳴尊神社の前を通り東に向かうと山間

には行ってゆく。

早苗の棚田に雨水の輪が幾重にも重なって梅雨近し、を感じさせる。山道に入るところで二度ほど道を間違いかけるが、GPSで軌道修正。視界のない林の道を行くと、出たり入ったりで二度鹿除ゲートを通る。いったん亀岡街道を横切り、雨傘を連ねて進み、上音羽の分岐で小休止する。忍頂寺に向け緩やかに山越えの道を行くと、最高点に四等三角点「下音羽」があるので立ち寄る。道からは少し外れているのだが、三角点の周りがきれいに刈られていて難なく見つけることができた。

下る途中に上がりこぶしになった大きな檜の木を見て急下降すると忍頂寺のT字交差点の道路に出る。ここからは長い石段の竜王山参道だ。整備された参道を登ってゆくと、小さな祠がお祀りされていて宝池寺近しだが小休止。出発すると10分で着き、やっと雨も上がって傘なしで昼食だ。久保さんと山内さんから台湾登山の土産も配られ美味しくいただく。宝池寺からは少し登ると、緩やかな深い林になり5分ほどで薄暗い切り開きの竜王山頂(三等三角点509.8m)に着く。陰気な雰囲気なので早々に展望台に移動する。

雨は上がったもののガスも残っていて、遠くはぼんやりだが周りの緑が美しい。全員で集合写真を撮り車作へ下山する。集落の自然歩道離脱点で続きの6月山行コースの説明を聞いてバス停まで下り、バスで阪急茨木駅に帰着して解散する。

【コースタイム】

泉原バス停09:14~10:07亀岡街道出会~10:20上音羽分岐~10:50下音羽~11:11忍頂寺~11:45宝池寺12:30~12:37竜王山~12:40展望台~13:42車作バス停



車作到着 次回の行程説明を聞く 写真提供：魚津清和

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 助川征 嶋岡章 中山勝也 橋本圭之輔 森沢義信 木村早苗 小

林三喜男 田中アキエ 中田栄 蓮川博凡 播戸日出生
横山規江 (京滋)上田典子 計17名

支部山行17-12 県境縦走50
高見峠～国見山～明神平～薊岳～大鏡山
～大又

黒田記代

6月3日(土)晴

榛原駅からタクシーに乗り、高見峠で下車。冷たい風に吹かれる。

急斜面を登り、三重・奈良県境でもある台高山脈縦走路に入った。心地よい風に吹かれながら縦走路を国見山に向け登降を繰り返す。伊勢辻山周辺は膝丈より低いレンゲツツジが点在していた。国見山への登山道はコバイケイソウの群落が広がっていた。明神平キャンプ地にはすでに4張りのテントが見られ、我々も明神平にテントを張った。

6月4日(日)晴

3時起床、5時出発。快晴のすがすがしい山歩き。木々の緑や草原の緑を愛で、県境稜線を離脱してからは周辺の山々の同定を楽しみながら薊岳に向った。薊岳からは岩場交じりの尾根を下り、大鏡山に向かう。大鏡池は水が干上がっていて、草原化していた。最近設置された四等三角点「麦谷西」を通過して大又に下山。舗装道路を歩き「やはた温泉」に到着した。入浴後、タクシーで榛原駅に出て帰宅した。

【コースタイム】

3日 高見峠09:37～11:08雲ヶ瀬山～13:04ハンシ山～14:10伊勢辻～16:20国見山～17:15明神平

4日 明神平04:54～07:21薊岳～09:06大鏡山～11:19大又～11:46やはた温泉

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 村田かおり 山内幸子 計4名

17-13ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く3
ポンポン山

柴田美生子

6月15日(木)晴

JR高槻駅からバスにゆられ20分程で上の口バス停へ。梅雨とは思えない好天に水田に映る山も綺麗。間もなく神峯山寺。今回新しく参加の人を紹介ののち体操をして出発。本山寺へ続く道は、アスファルトで舗装されて

おり会話も弾みながら足を進める。途中「本山寺森林づくりの会」の斧田氏、武田氏に迎えられ、活動現場を案内して頂き説明を受ける。モミ、ツガ、ブナが生育する特殊な地や害虫駆除の方法等現場を見学させていただきながら、勸請掛(櫓を結んだ縄)をくぐり本山寺へ。さらに20分ほど登ると高槻の古木(天狗杉)に到る。裏側には祠があり手を合わせる。本山寺山山頂付近で昼食をとる。整備された森の中は、光が差し木々が凛として美しい。

昼食後、東海自然歩道へ戻る。冷たく気持ちの良い風を感じながら歩き進めると階段が左手に見える。そこを登ると景色が広がる。ポンポン山に到着。小休憩ののち島本町最高峰「釈迦岳」(630.8m)をピストンし、杉谷へ向かう。畑の広がる集落を進み金蔵寺方面へ京都縦貫道の下をくぐると間もなく南春日町バス停に到着。



森林づくりの説明に耳を傾ける 写真提供：前田正彰

【コースタイム】

上の口バス停08:53～09:22神峯山寺09:43～11:00森林づくり拠点小屋～11:24本山寺～12:02本山寺山12:30～13:16ポンポン山～14:11釈迦岳～15:32金蔵寺～16:24南春日町バス停

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子
嶋岡章 柴田美生子 助川征 戸島泰三郎 中山勝也
橋本圭之輔 廣瀬健三 前田正彰 馬島有美 山下政一
浅田博三 岐部明弘 木村早苗 小林三喜男 田中アキエ
中田栄 播戸日出生 横山規江 (京滋)上田典子
計24名

本山寺山森林づくりの会活動報告

2017年1月5日(木) 9:30~15:00

仕事初めのこの日は時折り小雪の舞う寒い一日。まずは本堂でお神酒のお供え、安全祈願、百済ご住職への年始挨拶。そして作業開始。一人は昨年植樹の状況調査と樹種の再確認へ、残りは小屋周辺のマツの枯損木や常緑広葉樹を処理。中でも風で倒れた径25cm位のマツ3本、斜めにクロスして高さ6m位のところで掛かり木になっていて処理に手古摺る。根元に厚いベルトを巻きつけて、斜面の上方の木に固定したチェーンブロックのフックに繋ぎ、テコで根元を持ち上げながらブロックの手鎖を手繰りして巻き取る。鎖の長さだけ倒木は上方に動くが、その作業は中々大変。鎖の長さ一杯引上げてはフックを繋ぎ直す。これを何遍か繰り返して、やっと倒木2本を地面に引き下ろせた。残る一本はテコだけで下ろすことができた。この3本の処理だけで午後を費やしてしまい、あとは次回以降の宿題。〔秦 康夫〕

【参加者】 石原順子 斧田一陽 後藤和子 武田壽夫
秦康夫 (AM) 茂木完治 (PM) 薦田佳一 計7名

2017年2月19日(日) 9:30~15:30

降雪などで2回休み、小屋周辺から上部はまだらに雪が残っている。

標高400m前後の急斜面のヒノキの植林地「45林班ろ-04」地区で、間伐し倒れたままのものを玉切りし、等高線に沿って積み直す。6人がかりで取り組む。この山腹は急で、しかも崩れ易い上にこの処の降雪・融雪の繰り返しで一層足場が確保しづらい。特に処理木は谷に向けて滑り落ちるので、上下の同時作業は厳禁である。また、径30cm、長さ10m超の木はチェーン・ソーの出番。尤も、これを等高線に沿って積み直すのは一苦勞。それでも0.2haを整備出来た。小屋周辺の「45林班に-01」地区は、し残しているクロスした枯損木を日照改善の為、ヒサカキなど常緑樹の除伐と併せ、午後からの参加者と谷から移動した5名で取組む。午後一杯でようやく枯損木1本、常緑樹5~6本を除伐し、林床を整備した。〔武田壽夫〕

【参加者】 斧田一陽 小櫃徹夫 金井良碩 倉谷邦雄
黒山泰弘 武田壽夫 中村賢三 丸山喜代司 (PM) 薦田佳一 茂木完治 若林朋世 体験参加1 計12名

2017年3月9日(木) 9:30~15:30

天候の関係で一週間繰り延ばしての実施。戻り寒波で

気温は低い。

前回同様「45林班ろ-04」での作業。地面に散る枯枝の整理と伐採放置木の玉切り・積み直し、枝打ちと整備地域の標高を上げていく。足元は乾いていてズルズル滑る懸念は薄らぐが、移動には手足の置き所に要注意なことに変わりはない。慎重に作業を進める。チェーンソーの活躍で0.15haを整備。一方、高枝切り鋸による枝打ちは道具が重い分身体のバランスが難しい。足場は勿論、樹上方向も要注意で疲れは「三次元」でかかってくるので午前で切り上げ、午後は林床整備に廻る。なお、昨年見つけた溪流の「卵囊」は、昼食後見に行ったが、卵囊も幼生も確認出来なかった。孵化して泳ぎ去ったのであれば良いが。〔武田壽夫〕

【参加者】 石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 後藤和子
武田壽夫 計5名

2017年3月19日(日) 9:30~15:30

「45林班ろ-04」の林床整備。伐採後放置木の玉切り・棚積み、枝打ちなど。放置木は径30cm超の物が多く、チェーンソーを2台持込み斧田、小櫃両氏を中心に玉切り組、枝打ちの3班編成で作業する。いつもながらチェーンソーは有難い。とは言え玉切りした幹は急斜面を数メートル下方に落として棚積みするので、その運搬・積み上げは腕力だけが頼り。あとの「腰痛・肩痛」を気遣いながら取り組む。それでも作業は大いに捗り、0.2haを整備出来た。残る未整備地はあと僅か、格段にスッキリした谷の景色に満足して作業を終える。帰途、尾根に上がる新ルートを整備。原大橋への里道に出合う道を邪魔している倒木を処理し、邪魔な常緑樹数本も除伐。これで往復は格段に楽になりそう。〔武田壽夫〕

【参加者】 斧田一陽 小櫃徹夫 倉谷邦雄 黒山泰弘
杉本佳英 武田壽夫 宮本廣 計7名

2017年4月6日(木) 9:30~15:30

本山寺の山桜はまだまだで「谷の鶯」も声が聞こえない。代わりに鹿の鳴き声。天気予報は下り坂、空模様を気にしながらの作業。

「45林班ろ-04」での作業はいよいよ谷の最上部、整備の仕上げを進める。伐採放置木の玉切り・棚積み、枝打ち、などである。チェーンソーに1名、他は鋸と高枝切り鋸での作業。尾根に上がるにつれ傾斜は急に。湿った地面

は滑り易く、油断すると数メートルはズリ落ちる。その上、登るにつれ、下からは見えなかった放置木が目に入ってくる。それでも漸く自然林との境まで整備を進めることが出来た。ただ、掛り木になっている大径木の処理にはいつも難儀する。ロープで方向を固定して根元近くにチェーンソーを入れて楔を打ち込む。下を切り離れた所でロープを引いて揺さぶる。それで漸く摺り落ちてくれる。一方、枝打ちの方も随分進んできた。改めて見上げると幹がスッキリした植林地の姿には感心する。次の作業日からはそろそろ標高の高い44林班の整備やナラ枯れ対策更新に進む段取りになる。〔武田壽夫〕

【参加者】 斧田一陽 石原順子 倉谷邦雄 武田壽夫
中村賢三 宮本廣 計6名

2017年4月16日(日) 9:30~15:30

小屋周辺の整備のほか、今年度の活動の準備を兼ねて天狗杉への自然歩道沿いと、溪流部の現況確認を行う。

小屋周辺の自然林にあった宙吊りでもたれあった倒木は、気になっていた危険木。午後からの参加者も加わりロープを掛けて揺さぶり落とし、チェーンソーで玉切りして漸く処理出来た。全部で倒木5~6本、ナラ枯れ1本、加えて日差しを遮る常緑樹若干も処理出来た。天狗杉組は水切り溝を修復しながらの点検。昨年施したナラ枯れ対策(タオル巻)の有効性を確認するとともに、植樹した33本中31本が健気に芽吹いたり若葉を広げ出していることに一安心。また、谷筋の崩壊は約70mに及ぶことも確認出来、これへの「手当て」は数年を覚悟の課題。

〔武田壽夫〕

【参加者】 泉家恵子 斧田一陽 小櫃徹夫 倉谷邦雄
阪下幸一 武田壽夫 丸山喜代司 宮本廣 (PM) 薦田
佳一 茂木完治 若林朋世 計11名

2017年5月4日(木) 9:30~15:30

「森林・山村多面的機能発揮事業」では、新たな実施項目として「モニタリング調査」を設定。これは100㎡の「円形調査区」2ヶ所を選び林床整備や除伐などの手を加えながら三年間の植生変化を観察していこうとするもの。今日はその準備。

候補地はいずれも45林班内。まず、小屋から地図上約400mを下り、尾根道脇の「に-03」に向い、マツヤヒサカキなど常緑樹が優勢な場所を選ぶ。近くには中径のヤマザクラも数本育っている。「調査区」を決めるには、中心木から半径5.65mの円を描くことから始まる。一人が両手を広げ長さ4mの竿を水平に、円を描くように振

る。メンバーは、この円周内の立木の一本一本に太さ別に色の違うテープを巻き、サイズ毎に集計する。同時に、定点観測的に三年間の経緯を見る為、四隅の撮影ポイントを決める。午後は「45林班ろ-03」の谷に移動し、溪流近くに調査区を選ぶ。一帯は数年前に間伐された人工林で切り倒した木が乱雑に放置されている。溪流を「45林班に-02」の植林地の端まで下る。小規模の砂防施設も健在で、目立った崩れはない模様。〔武田壽夫〕

【参加者】 石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 黒山泰弘
武田壽夫 中村賢三 計6名

2017年5月16日(火) 9:30~16:30

モニタリングに加え「45林班に-03」、「44林班に」ほかに所在する長期放置林4ヶ所も今後3年の経緯を見て行くこととした。新しいモニタリング調査区も2ヶ所選定。

〔武田壽夫〕

【参加者】 斧田一陽 武田壽夫 計2名

2017年5月21日(日) 9:30~15:30

向こう3ヶ年の「森林・山村多面的機能発揮事業」の主要内容は、面積7ha(長期放置の天然林2ha、人工林5ha)での森林保全活動を行うこと、新しくモニタリング調査区を設定することなど。

3班編成で天狗杉近く、人工林との境界辺りの自然林で林床整備に重点を置いて枯損木除伐と倒木処理する。枯損木は枝掛りするものあり、折れて落ちるものありで、安全な離隔を心掛ける。玉切りした大木運搬は相変わらず。それでも、何とか約0.3haの整備を終えた。とは言え、小屋脇に植え戻した「ヤマザクラ」が抜き取られていたのは残念の一語に尽きる。〔武田壽夫〕

【参加者】 猪川誠 泉家恵子 内田博徳 大津陸郎 斧田一陽 倉谷邦雄 黒山泰弘 薦田佳一 武田壽夫 福井誠 宮本廣 体験参加1 計12名

登山計画書(届)の提出を！

事故・遭難対策として登山計画書(届)は必ず提出しましょう。

- ・他支部実施の山行
- ・所属山岳会および個人の宿泊を伴う山行
(旅行者のツアー登山を除く)

提出先：山行委員長(黒田記代)kuroda2822@kcn.jp

※各県警等へは別途提出してください。

■□■ 自己紹介 (皆さんよろしく)

中村三佳(会員番号16124)

山なんてなんの興味もなかった。なぜわざわざしんどい思いをして山に登るのかわからなかった。私が学生だった頃、中高年の登山ブームで父が山に登り始めた。父はすぐに山の魅力に取りつかれ、夏には北アルプス、普段は六甲山によく出かけていた。そして、山に行くたびに山のすばらしさを語り、私を誘うようになった。

私はと言うと、繰り返して誘う父に閉口していた。そんな私に「一度だけでいい、一緒に六甲山に行ってくれば、二度と誘わないから」と言うのである。ある日、なんとか諦めてもらおうと父と一緒に六甲山に登った。これで誘われることはないと思ったが、不思議と爽快感が残り、その2週間後、急遽、登山靴とニッカーボッカを買って揃え、父の奥穂高岳行について行ったのだ。

夏に雪の上を歩くこと、山小屋に宿泊すること、色とりどりのテントを見ながらおでんを食べること。すべてが新鮮で楽しかった。山頂に立った時、3千メートルの景色に感動し、達成感で胸がいっぱいになった。山への扉が開いた瞬間である。それから少しずつ山に登り始めた。

しかし、あくまでも夏山、小屋泊、晴れの日登山を楽しむのみ。従っていつまでたっても技術無し、体力無し、

経験無しで地図も読めず、ちょっとした岩場におじけづいていた。そこで登山の基礎を学ぼうと、関西支部の登山教室を受講することにしたのである。初級で初めて地図を読み、中級では初めてハーネスを付け、アンザインして沢を登った。何ひとつできず、ついて行くのに精一杯だった。一方で、初めて手にする安全環付きカラビラにわくわくし、スリングをぐるぐる巻きにして携えただけで技術が向上したような気になった。

1年半ほどたった頃、辻和雄様から入会申込書を手渡され記入すると、重廣恒夫様に「入会してからのステップアップを期待する」との言葉を添えられていたが、あっさり受理された。おそらく、日本山岳会開設以来、稀にみるひよっ子会員の誕生だろう。

現在、上級へと進み、つい先日、教えを受けながら懸垂下降をしてクライミングをした。緊張しながらも新たな山の世界に挑戦している。まだまだ実力不足、経験不足であるが、せつかく会員になったのだ。私がまだ出会っていない山の魅力を是非ご教授頂きたい。そして、さまざまな角度から山を楽しんでいければと思っている。どうぞよろしくお願い致します。

(なかむら・みか 2017/07/17受)

今年のGW山行(個人山行) 台湾の南湖大山、中央尖山と沢登り

2017年4月29日～5月8日

茂木完治

台湾の中央山脈北端に位置する南湖大山(3742m)は五岳の一つ、隣の中央尖山(3705m)は三尖の一つである。中央尖山を登って五岳三尖達成と沢登りをしたい私は友人6名でA隊、南湖大山に登る女性陣4名のB隊という編成で、それぞれ無事に目的を達成した。

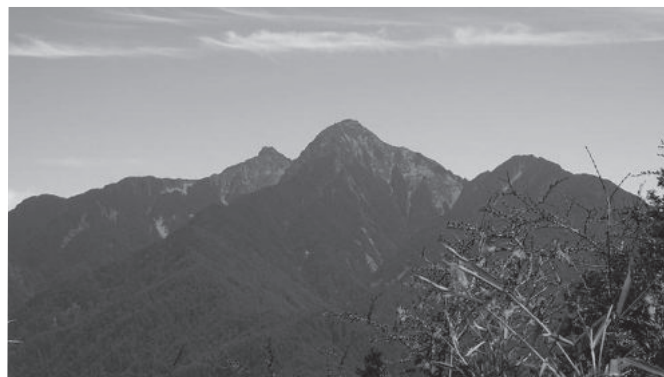
4月29日

メンバー全員台北空港に集合。台湾在住の関西支部員・許基滄氏ほか、中華民国溯溪協会会員等の出迎えをいただき、A隊に3名、B隊に2名が加わり、宜蘭経由で麓の南山村の民宿に泊まった。

4月30日

暗いうちに南山を車で出発。登山口の勝光村・思源啞口(1700m)から登り始める。天気はすこぶるよく、登るにしたがって見える雪山山脈の景観が素晴らしい。最も

高いのはもちろん雪山(3886m)である。多加屯山(2795m)から南湖大山、中央尖山も見ることができた。木杆鞍部(2500m)で南湖大山を目指すB隊(5月5日帰国)と別れて南湖溪に下り、朽ちかけた南湖溪山屋に泊まる。夜中に



中央尖山(中央)と西峰(手前)・東峰(奥)

顔の上をネズミが走り悲鳴を上げるメンバーもいた。

5月1日(快晴)

山屋を出て500mほど登って、下ると中央尖溪であった。谷は意外と大きく、渡渉の繰り返しのため沢靴に履き替えて進み、標高2400mの中央尖山頂で泊まった。ここでもネズミの洗礼を受けた。

5月2日(曇時々小雨)

荒れた谷を登る。時々石楠花の花を見る。3500mの峠からは背の低い笹の原を登り、最後は岩場を登って中央尖山頂に着いた。ガスで周りまはまったく見えない。今日はB隊も南湖大山登頂日だが同じような天気であろう。夕方に中央尖山頂山屋に戻る。南湖大山から縦走してきた単独行の日本人が幕営していた。南湖山荘でB隊に会ったとのこと。

5月3日

南湖山頂山屋への登山道を下り、登山道が尾根に登りかかるところから中央尖溪に入った。

私の狙いは、中央尖溪を南湖山頂出合まで下降し、南湖山頂を南湖山頂山屋まで溯上することだ。南湖山頂の上流は12年前に溯行しているので、これで完結といえるだろう。

中央尖溪の下りでは、いきなり淵を泳ぎ、20mの直瀑の上に出た。下部はゴルジュで真下に青い釜が見える。その先は連瀑。右岸のリッジを懸垂などで連瀑の下に降り立つ。このあと平坦な谷となり、困難も無くなったので今日中に南湖山頂出合まで下れそうだと期待したら甘かった。谷が狭まりゴルジュになって、その先は滝で切れ

落ちていた。戻って河原に泊まった。

5月4日

ゴルジュから右岸の急峻なガレを登って巻く。岩稜から悪い下降で滝下に着いた時は、ほっとした。そのあと廊下が続く

が、厳しくはない。どんどん下って南湖山頂出合に出た。対岸(南湖山頂右岸)に大きい崩壊跡があった。地形図には無いので出来たのは最近だろう。南湖山頂は一か所ロープを出しただけで平凡だった。距離が稼げて南湖山頂山頂のすぐ下流で泊まった。

5月5日

南湖山頂山頂山屋からは登山道で木杆鞍部を経て勝光村へ下山。その日のうちに台北に戻った。6日は中華民国溯溪協会による歓迎会があり、私の五岳三尖登山達成を祝っていただいた。8日帰国。

沢は素晴らしい世界である。興味のある方は茂木まで声をかけてください。一緒に沢登りをやりませんか。



中央尖山頂核心区連瀑のゴルジュ

日本の山岳画 山書にもふれて(その2)

鳴岡 章

3. 日本山岳画協会の設立と戦前の山の画文集

1936(昭11)年日本山岳会の支援のもと日本山岳画協会(Association des Abtistes Alpines)が設立された。

会員は中村清太郎、茨木猪之吉、足立源一郎、石井鶴三、吉田博、石川滋彦、丸山晚霞、小菅徳三、武井真澄、末光績、染木熙、内野猛の12名。顧問に小島烏水と藤木九三の名がある。

(1) 坂本直行(1904~1994)

日本が太平洋戦争に突入したのが1941(昭16)年である。その4年前にひとつの山の画文集が著された。それが坂本直行の『山・原野・牧場』(竹村書房1937)である。坂本は北大山岳部出身で、北海道十勝平野で開拓に従事しながら山の絵を描き続けた画家である。その後、戦中から戦後にかけて、『開墾の記』(長崎書店1942)、『原野から見

た山』(朋文堂1957)、『雪原の足あと』(茗溪堂1965)を著している。第7図は『原野から見た山』のなかの「南十勝原野から見た初冬のピリカ連峰(南日高)」である。水

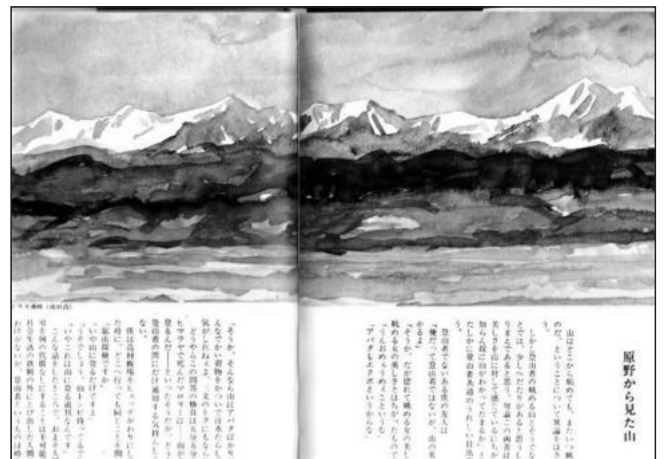


図7

彩ながら油彩に負けない彩色を施して立体感を出すと同時に平行構図でむつかしい遠近感を見事に表現している。これはよほどデッサン力がたしかで、彩色術に長けていないとできない技で、じつにうまいものだ。

(2) 足立源一郎(1889~1973)

『山・原野・牧場』刊行2年後に足立源一郎の『山に描く』(古今書房1939)が出た。これは日本各地の山だけでなく、戦前らしく台湾や朝鮮の山にも足跡を残し数多くの鉛筆スケッチがおさめられている。戦後になって豪華本で、鉛筆スケッチが多数掲載されている『山は屋上より』(朋文堂1956)、北海道から九州までの152座を描いた鉛筆淡彩のタッチがすばらしい『日本の山旅』(茗溪堂1970)を出版し



図8

ている。第8図は『山は屋上より』のなかの「春山讃仰」に描かれた「穂高の切戸」で、鉛筆によるタッチがすばらしい。

(3) 加藤丈策(1901~1999)

『樹林の山旅』(朋文堂1940)は、森本次男の著作で、奥美濃の山を世に知らしめた紀行文集である。第9図は『樹林の山旅』のなかの「雪の石轍白高原」に描かれた挿絵で、空を線で描き雪山を浮き出させる技法は非凡である。これ

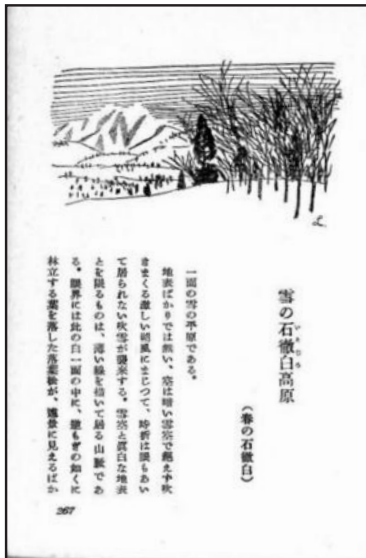


図9

を描いた加藤丈策は山形出身の画家だというだけで、あまりよく知られていないが、森本次男は「あとがき」に“装幀並に挿繪を書かれた加藤丈策氏は私達の文学の集り((昨日))の同人である。氏には此の書のために数度私と共に或は單獨で奥美濃への山旅をして戴いた。”と記している。

(4) 加藤泰三(1911~1944)

加藤泰三(1911~1944)は、日本山岳画協会の石井鶴三(1887~1973)に師事した彫刻家である。

『霧の山稜』(朋文堂 1941)は、毛筆によるスケッチが絶妙で文章もユーモラスなものが多い。山の画文集としては最高傑作との評価が高く、山の画文集を志す人々は、多かれ少なかれ、これをお手本にしている。

加藤泰三は太平洋戦争に駆りだされ1944(昭19)年にニューギニアで戦死した。もし生還していたら、また山の画文集を刊行してくれたのにと、ながいあいだ、加藤泰三の早世を嘆き悲しむばかりであったが、おもいがけなくも、平成になってから遺稿集『山より帰る』(鹿鳴荘1992)が発刊された。

これは「加藤泰三遺作刊行会」が彼の遺作を編纂したもので函入りの豪華本である。表紙は『霧の山稜』(再版)の版画「薬師の頂上」(第10図)が使われている。加藤泰



図10

三は、生前から続編を意図していたようで、その表紙案も描いている。それが扉絵(第11図)に使われている。収録されているのは山岳雑誌『山と高原』、『山小屋』などに発表されたものを中心に、原寸・原色版の自筆絵葉書も数枚挿入されている。

なお、加藤泰三の師匠である石井鶴三は、日本山岳会の永年会員でもあり加藤泰三に彫刻や絵ばかりでなく山登りについても手ほどきしている。彼の著書には『石井鶴三挿絵集第1巻』(光大社1921)、『吉川英治「宮本武蔵」挿絵名作集』(六興出版1984)などあり、山岳画家より挿絵画家としての業績の方が高く評価されている。

(つづく)



図11

スケッチ同好会 例会のご案内と報告

第20回 【案内】

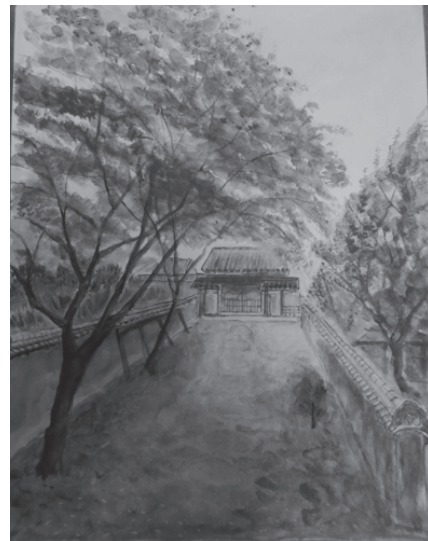
日時 平成29年11月13日(月)
 集合 JR比叡山坂本駅改札口 午前9時30分
 行先 日吉神社界隈
 申込 平成29年11月6日(月)迄 森沢義信
 e-mail: ymorisawa2001@kcn.jp
 電話: 06-6357-5960
 備考 持ち物等の詳細は後日、参加者に連絡

【報告】 第18回 書写山・圓教寺周辺

日時 平成29年7月24日(月)
【参加者】 浅田博三 石原順子 岩崎しのぶ 浦上芳啓 金井良碩 久保和恵 薦田佳一 嶋岡章 野村哲夫 播戸日出生 松上美代子 森沢義信 横山規江 計13名

【報告】 第17回 穂高～白馬周辺(スケッチ街道)

日程 平成29年5月7日(日)～10日(水)
【参加者】 浅田博三 岩崎しのぶ 浦上芳啓 大塚宏園 岡田輝子 金井良碩 久保和恵 河野直子 薦田佳一 助川征 野村哲夫 播戸日出生 松上美代子 松村文子 森沢義信 横山規江 (信濃)大塚和子 計17名



いにしへの土塀を偲び 画: 森沢義信



鹿島槍ヶ岳の春(黒沢峠より) 画: 河野直子

【第2回グループ展報告】

平成29年4月24日(月)から4日間、大阪市立総合学習センターギャラリーで開催しました第2回グループ展は、約200名ものご来場を賜りました。ありがとうございました。

※前号掲載【報告】第16回の作品「画: 森沢義信」としていましたが、正しくは「画: 嶋岡章」です。お詫びして訂正いたします。



Room日録 2017年

5月10日(水) 水曜会	6月13日(火) 支部事務業務	7月10日(月) 関西登山史研究会
11日(木) 役員会	14日(水) 広報委員会	13日(木) 図書整理
15日(月) 関西登山史研究会	支部報発送	役員会
16日(火) 財務委員打合せ	役員会	15日(土) 郵便受け取り
23日(火) 入金確認	19日(月) 図書整理	16日(日) 支部事務業務
24日(水) 総務委員会	会計事務	20日(木) 入金確認
山行委員会	21日(水) 図書整理	財務委員会
25日(木) 郵便受け取り	25日(日) 図書整理	21日(金) 支部事務業務
26日(金) 支部事務業務	26日(月) 支部事務業務	23日(日) ロープワーク講習会
6月7日(水) 水曜会	28日(水) 図書整理	28日(金) 入金確認
12日(月) 図書委員会	7月7日(金) 支部事務業務	
図書整理	自然保護委員会	

受贈一覧

(2017.5.1～2017.7.31受理分)

登山月報 第579号 日本山岳・スポーツライミング協会

事故報告書：学生クラブ-富士山滑落事故 日本山岳会広島支部

日本山岳会「高尾の森」通信 vol.66

兵庫山岳 第600, 601号 兵庫県山岳連盟

日本山岳会支部報

・秋田山岳 No.104

・宮城山岳通信 第8, 9号

・茨城支部報 No.9

・栃木支部報 第10号

・群馬支部報 第6号

・埼玉支部報 第21号

・[山梨]支部通信 第3期2号

・不盡：静岡支部会報 第81号

・東海支部報 No.150

・[京都・滋賀]支部だより No.127

・JAC Hiroshima 第64号

・四国山岳：四国支部報 第4号

・JAC北九だより 第81号

・東九州支部報 第77, 78号

2017年度10月～12月 支部山行計画

※申込みは、最後尾の宛先に行ってください【いずれも締切厳守】

17-26 4000山グランプリ

「四国の山 今ノ山・妹尾山」

日 時：9月30日(土)・10月1日(日)

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください

一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：9月20日迄(担当：重廣恒夫)

申込み：9月27日迄(担当：茂木完治)

17-29 しっかり歩こう

「一徳坊山から岩湧山・紀見峠」

日 時：10月15日(日)

集 合：河内長野駅前コミュニティバス乗場7番
8時50分(9時4分発バスに乗車)

コース：河内長野駅=中日野～一徳坊山～岩湧山～三石山～紀見峠

地 図：2.5万分の1「岩湧山」

備 考：地図を見ながら約20kmを7時間程度で歩く
少雨決行

申込み：10月7日迄(担当：山内幸子)

17-30 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く5

「清滝川・菩提道コース」

日 時：10月19日(木)

集 合：阪急嵐山駅改札口前8:30

コース：阪急嵐山駅～渡月橋～鳥居本～落合橋～梶尾～坂尻～鷹峯源光庵前バス停

地 図：2.5万分の1「京都西北部」

備 考：歩行距離約15km 歩行時間約6時間

申込み：10月12日迄(担当：久保和恵)

17-31 野外料理に挑戦

小学生対象の山行(かまど作り、火おこし、簡単な野外料理に挑戦します)

日 時：10月22日(日) 10:00～15:40

コース：山陽電鉄月見山駅～天井川取付～キャンプ適地～馬の背～東山～地下鉄妙法寺駅解散

集 合：山陽電鉄月見山駅10:00

備 考：小学4年生以上は子供のみの参加可能

小学3年生以下は保護者同伴

会員外の子供の参加可能

前日18時天気予報で降水確率70%以上の場合

第28回藤木祭(生誕130年)

山の日関連行事

日 時：10月1日(日) 午後1時～(雨天決行)

会 場：芦屋・高座の滝前広場

備 考：記念ハイキング 阪急芦屋川駅山側

(芦屋川左岸)午前9時集合

ロックガーデンを歩き藤木祭に合流

主 催：JAC関西支部・大阪府岳連・兵庫県岳連

後 援：芦屋市・近畿地区山岳連盟

17-27 関西支部県境縦走54

日 時：10月7日(土)・8日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります

HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡

申込み：9月27日迄(担当：黒田記代)

17-28 四国支部交流山行

日 時：10月7日(土)～9日(祝・月)

コース：1泊2日の沢登り(沢登り例会)と日帰り登山

7日 夕方に四国支部管生ロッジに集合、宿泊

8日 ①沢組は管生谷出合より遡行、途中で宿泊

②登山組は登山道で三嶺往復、下山後解散

9日 沢組は三嶺に登頂して下山後解散

備 考：沢組と登山組のそれぞれを募集

悪天の場合、7日朝の時点で中止を連絡

中止

申込み：10月8日迄(担当：黒田記代)

17-32 4000山グランプリ

「依遅ヶ尾山540m・金剛童子山613m」

日 時：11月11日(土)・12日(日)

コース：峰山駅～依遅ヶ尾山～金剛童子山～峰山駅

地 図：2.5万分の1「丹後平」「日置」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：11月1日迄(担当：重廣恒夫)

17-33 関西支部県境縦走55

日 時：11月18日(土)・19日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡

申込み：10月24日迄(担当：黒田記代)

17-34 しっかり歩こう

「金勝アルプス 鶏冠山～龍王山・金勝山」

日 時：11月19日(日)

集 合：JR草津駅東口帝産バス上桐生行きバス乗場
7:50(8時発バス乗車)コース：上桐生～鶏冠山～天狗山～白石峰～狛坂摩崖
仏往復～龍王山～金勝山～金勝寺

地 図：2.5万分の1「三雲」「瀬田」

備 考：地図を見ながら歩く山行 岩場歩きがあります
落ヶ滝や狛坂摩崖仏の往復あり 約14km
帰路「こんぜめぐりちゃんバス」で金勝寺から
手原駅までバス

申込み：11月12日迄(担当：山内幸子)

17-35 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く6

「西賀茂コース」

日 時：11月23日(木・祝)

集 合：京都市営地下鉄 北大路駅改札口前8:40

コース：鷹峯源光庵前バス停～正伝寺～鴨川畔～山幸
橋～夜泣峠～二ノ瀬駅～鞍馬駅

地 図：2.5万分の1「京都西北部」「周山」「大原」

備 考：歩行距離約10km 歩行時間約4時間30分

申込み：11月16日迄(担当：久保和恵)

17-36 わんぱく探検

府民の森「ほしだ園地」ハイキング

日 時：11月26日(日)

集 合：R168沿いの駐車場9:30

(京阪・私市駅から徒歩1時間)

コース：駐車場～ピトン小屋～星のブランコ～やまび
こ広場(昼食)～つつじの小道～駐車場

備 考：午後3時解散予定

のんびり歩きたい方、幼児から小学生の子供
さんやお孫さんと保護者

雨天中止(雨天時は朝6時半に連絡)

申込み：11月16日迄(担当：茂木完治)

17-37 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く7

「薬王坂コース」

日 時：12月7日(木)

集 合：叡山電鉄出町柳駅改札口前9:30

コース：鞍馬駅～(鞍馬寺)～薬王坂～江文峠～寂光院
～大原バス停

地 図：2.5万分の1「大原」

備 考：歩行距離約8km 歩行時間約4時間

申込み：11月30日迄(担当：久保和恵)

17-38 比良山系を歩く

「摺鉢山～烏谷山」

日 時：12月9日(土)

集 合：堅田駅改札口前8:40

コース：坊村バス停～牛コバ～摺鉢山～烏谷山～比良
岳～打身山山上

地 図：2.5万分の1「比良」「花背」

備 考：歩行距離約9km 歩行時間約5時間30分

申込み：12月2日迄(担当：久保和恵)

17-39 4000山グランプリ

四国の山「野根山・甚吉森・千本山」

日 時：12月16日(土)・17日(日)

備 考：詳しくは担当者に問い合わせてください
一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：12月6日迄(担当：重廣恒夫)

17-40 関西支部県境縦走56

日 時：12月23日(土・祝)・24日(日)

コース：前月の進捗状況によりコースが決まります
HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡

申込み：12月13日迄(担当：黒田記代)

※

各山行は

担当者もしくは支部宛にお申し込みください

e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp

登山教室は、一般対象で募集中です。

会員の参加も可能です(有料)。多数の方々の参加をお待ちしています。(担当：黒田)

【初級】：登山に必要な基本的な知識・技術・体力養成及び地図とコンパスの使い方を習熟する

【中級】：沢歩きを通じて、岩場の通過や登攀具の基礎的な使用法の習熟と安全な移動方法を身につける

【上級】：基礎的な岩登り、沢登り、積雪期登山を通じて安全登山の知識と技術を取得する

ステップアップ登山教室 2nd・3rdステップ

初級 10月21日(土) 坊村～武奈ヶ岳～八雲が原～イン谷口

11月25日(土) 豆崎奥山～高御位山～北山分岐

12月7日(木) 座学

中級 10月17日(火) 七曲滝～百間滝～似以滝～白石滝～六甲最高峰

11月14日(火) 石切道(大月地獄谷)ガーデンテラス～五助山

12月7日(木) 座学

上級 10月26日(木) 京都北山・毘沙門谷

11月30日(木) 高野山・弁天谷

12月7日(木) 座学

2017年10月～12月 自然保護行事案内

1 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づくりの会活動)

活動日：10月5日(木)・10月15日(日)

11月2日(木)・11月19日(日)

12月7日(木)・12月17日(日)

天然林除伐整備・人工林林床整備・里道保全整備など
※体験作業参加・本山寺山森林づくりの会入会 歓迎

2 東お多福山ススキ草原復元活動

・10月4日(水) 秋の植生調査・拡大刈払・登山道整備など

・11月25日(土)・12月9日(土) 晩秋の全面刈払など

3 自然観察会・森林観察会

上記1および2の活動日に随時受入

(10名以上の場合は、期日協議可能)

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556 / 携帯 090-4037-4542

※締め切り：開催日の一週間前まで

※集 合：本山寺山の森 JR高槻駅北口アルプラザ前
東お多福山 阪急芦屋川駅改札口北側広場
いずれも午前8時50分

〈編集後記〉

☆空梅雨かと心配したものの、梅雨明け発表後に雨が降りだし各地に災害をもたらしました。晴れば猛暑、酷暑、そして降れば豪雨と天気は極端なのが厄介です。

☆梅雨明け十日の好天を期待して、7月末に南アルプス北部を縦走しました。しかし連日、小雨のガスの中を歩くことになり、頂上からの展望などは適いませんでしたが、天気の神様も多少は気を利かしてくれたようで、暫し雲のバールを開いてくれる時もありました。(N)

発行日 2017(平成29)年9月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 金井良碩
編集 加藤芳樹 久保和恵 野口恒雄
制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28

BLUE ICE from Chamonix



コーカスハーネスⅢ

¥8,800+税

重量:180g(M)
ダイニーマをメイン素材に使用した超軽量アルパインシットハーネス!
■沢登り、岩稜歩きに

17秋冬 NEW コーカスライトハーネス

¥9,800+税

重量:90g(M)
軽さを追求した世界最軽量クラスのシットハーネス!
■岩場の通過点などに



お問い合わせ先:(株)ケンコー社 TEL:06-6374-2788

山岳雑誌 岳人 10月号 発売中

山と人、時代をつなぐ山岳雑誌「岳人」

創刊
70周年
記念

冊子サイズ・文字が大きくなり、さらに読みやすくなりました。
よりいっそう充実した内容でお届けします。



毎月15日発売 / 新価格 ¥815 (+税)

▶ 年間購読がおすすぬ 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

通常価格 12冊 9,780円 (+税) → 年間購読 12冊 8,965円 (+税) 1年間で、1冊分 815円おトク!

年間購読お申し込み方法 WEB <http://www.gakujin.jp> モンベルポスト ☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

〒60618161
京都市左京区二乗寺木ノ本町15

ナカニシヤ出版

TEL 0757230111
FAX 0757230095

表示は本体価格です。

日本山岳会 110周年記念出版



改訂新日本山岳誌
菊判 2016頁 写真・地図多数 上製クロス装・函入り
日本山岳会編著 18,000円

日本山岳会が脚で調査した、日本全国四〇〇〇山の最新情報を網羅した山岳百科事典を10年ぶりに改訂。地形や登山道の変化、地名変更、標高数値などを改訂。



森の巨人たち

A5判 176頁
カラー写真多数
コース案内付
1,800円

圧倒されるような森の巨樹の様々なフォルム。近畿とその周辺の山々で、そんな巨人の人格を見るような、個性と生命力に溢れた「森の主」と向かい合った悦びと魅力を語る。

巨樹と出会うー近畿とその周辺の山 草川啓三著



京都府山岳総覧

A5判 272頁
口絵カラーほか
写真・地図多数
2,200円

京都府の339の山を实地踏査して、登路を含めて解説。主な山には概念図・写真を加えた、京都の山の最も詳しい案内書。カラー口絵写真、標高100m以上全三角点を掲載。



大阪の山歩き100

A5判 184頁
オールカラー
写真・地図多数
1,800円

大阪の山々はそれぞれに歴史があり、個性に富んでいる。バスや電車を利用して家族づれで登れるコースばかり、一〇〇山、一〇〇コースを選んだウォーキングガイド。

街中から気軽に楽しむ山歩きガイド 清水 満著

【山旅専門の旅行会社】 アルパインツアーからのご案内

大阪(関空)からツアーリーダー全行程同行
香港の山旅 満喫ハイキング 3日間

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
12/9(土)～12/11(月)	¥118,000

休日を利用し、コンパクトな日程で自然豊かな香港を楽しめます。体力に合わせたコースが選べる特別企画です。ぜひご参加ください!



▲青い海の奥にそびえるシャープピーク

大阪(関空)からツアーリーダー全行程同行
パタゴニア・パイン&フィッツロイ山群
トレッキングとイグアスの滝 14日間

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
12/4(月)～12/17(日)	¥948,000

チリ側のパイン、アルゼンチン側のフィッツロイの両山群で歩き応えのあるトレッキングを満喫。イグアスの滝も訪れます!



▲迫力あるフィッツロイ山群